



北小の宝物 <ラゲーザ玉>の2枚の油絵の話

皆さん、おはようございます。

1月の全校朝会で、北小の宝物である『青い目の人形（ウオヘロちゃんとアンジェラちゃん）』のお話をしましたが、今日は、もう一つの宝物である2枚の油絵の話をしたと思います。

皆さんの目の前（演台の前）に、『柿』の絵と『菊』の絵があるかと思います。いつもは校長室に飾ってありますが、今日は、皆さんに観てもらうために、特別にここに持ってきました。

『柿』の絵の左下には、<エレオノーラ・ラゲーザ・玉>のサインがあります。

『菊』の絵の左下には、<エレオノーラ・ラゲーザ・玉 トキオ 1936-XIV（11・5）>のサインがあります。

この2枚の絵を描いた人が<ラゲーザ玉>という女の人で、「日本で最初の女性西洋画家」と言われている有名な人です。



では、何でそんなに有名な画家の絵が2枚も、北小にあるのでしょうか？

<ラゲーザ玉さん>は、幕末の文久元年（1861年）に江戸（現在の東京都港区）に生まれて、昭和14年（1939年）に78歳亡くなるまで、イタリアで51年間、日本で6年間、素晴らしい油絵を描き続けた人です。

この<ラゲーザ玉さん>は、結婚する前は、<清原玉（きよはら たま）さん>とい名前でした。

<玉さん>は絵を描くことが大好きで、日本画が得意な少女でしたが、明治9年にできた「工部（こうぶ）美術学校」という学校の先生であったイタリア人彫刻家のビンチェンツォ・ラゲーザという人と、17歳の時に偶然知り合いになりました。

この「工部（こうぶ）美術学校」というのは、日本人に西洋の美術を教えるためにできた日本で最初の美術学校で、<玉さん>は、ラゲーザ先生の彫刻のモデルになり、西洋画の弟子になり、先生の助手を務めていましたが、19歳の時にこのラゲーザ先生と結婚したことで、名前が<ラゲーザ玉>となりました。

<ラゲーザ玉さん>は、結婚した2年後の明治15年（1882年）、ご主人の故郷であるイタリアのシチリア島に渡って、パレルモという街に住むことになりました。イタリアでは、<エレオノーラ・ラゲーザ>という名前で生活していました。

そして、1884年に、ご主人のラグーザさんが、このパレルモに私立の工芸学校を創って校長になったことに伴って、〈玉さん〉はその学校で水彩画を教える先生になりましたが、自分もパレルモ大学の美術科に入学して本格的に油絵の勉強を始めました。

わずか数年の勉強で、展覧会に出品した作品はすべて入選するほど、〈玉さん〉は油絵の才能に恵まれていたようで、ニューヨーク国際美術展覧会で婦人部門の最高賞を受賞するなど、その後もイタリア女流画家の第一人者として活躍を続けました。

しかし、〈玉さん〉がイタリアに渡って45年後の1927年、ご主人のラグーザさんが亡くなってしまったため、〈玉さん〉は日本に帰ることを決意します。

すぐに帰国することはできなかつたのですが、昭和8年（1933年）に〈玉さん〉は51年ぶりに、72歳で日本に帰ってきました。

その時、〈玉さん〉をイタリアまで迎えにいったのが、〈玉さん〉のお姉さんのお孫さんにあたる〈清原初枝（きよはら はつえ）さん〉という当時16歳の女の子でした。

実は、その〈清原初枝さん〉のお母さんである〈清原シマさん〉というのが、桐生市横山町の出身で、〈玉さん〉が生まれ育った東京の清原家にお嫁さんに行く前は、「長谷川シマさん」という名前でした。

横山町というのは、この北小のすぐ裏の方、北側一帯が横山町で、今も4人の児童が、この北小に通ってきています。

〈清原シマさん〉は小学校しか出ていなかったために、ただ一つの母校であるこの北小学校をととても大事にしていたということです。

〈ラグーザ玉さん〉の油絵作品2枚を母校の北小学校に贈ってくれたのも、この〈清原シマさん〉で、北小学校の歴史を記した『沿革史』を見ると、その〈清原シマさん〉が昭和50年の2月に北小学校を訪れて、図書室の本を買うお金を寄付してくれたという記録も残っています。

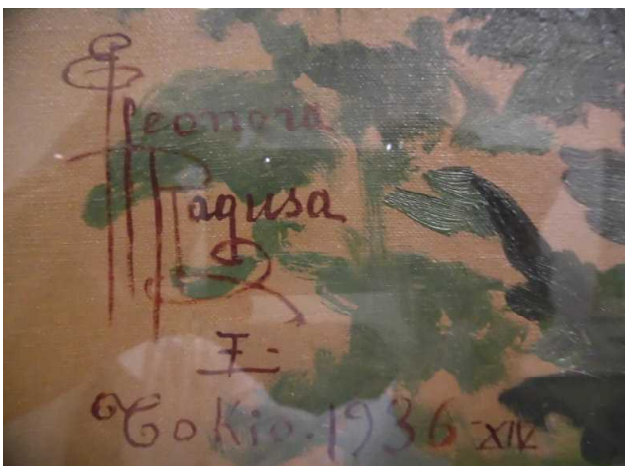
さて、ここでやっと、〈ラグーザ玉さん〉と北小学校が繋がってきました。

このような縁があったので、北小学校には、日本で最初の女性西洋画家〈ラグーザ玉さん〉の貴重な油絵が2枚も残っているということです。

〈清原初枝さん〉とともに、半世紀ぶりに、72歳で日本に帰ってきた〈玉さん〉は、亡くなるまでの6年間も絵を描き続けています。

『菊』の絵のサインにある「トキオ 1936-XIV (11・5)」が、「1936年（昭和11年）11月5日 東京で完成）」ということだとすると、この絵は〈玉さん〉が74歳の時、亡くなる4年前に完成させた絵だということが分かります。

また、『北小沿革史』によると、「この2枚の絵は昭和59年9月に修復作業が行われた」という記録が残っています。



【『菊』の絵にあるサイン】



【修復される前の『柿』の絵】

「修復作業」というのは、絵の傷んでいる部分を元のように直すことで、「今から80年も前に描かれた貴重な絵を、いつまでも美しい状態で残しておきたい」という、当時の北小関係者のこの絵を大切にしたい気持ちがよく表れていると思います。

この2枚の絵は、青い目の人形（ウオヘロちゃんとアンジェラちゃん）と同じように、北小学校の宝物ですから、最後になりますが、北小学校には、「日本で最初の女性西洋画家」として有名な〈ラグーザ玉さん〉の絵（『柿』の絵と『菊』の絵）があるということを、皆さんも忘れないで、まずはお家の人に伝えてください。

そして、皆さん自身も忘れないで、語り継いでいってください。終わります。

